



東北大学

平成 29-30 年度

IR 室年次活動報告書

東北大学インスティテューショナル・
リサーチ室 (IR 室)

ごあいさつ

東北大学インスティテューショナル・リサーチ室(IR 室)は、平成 28 年 1 月 1 日に東北大学の特定事業組織として設置され、教育、研究その他の本学の諸活動に関する多様なデータの効果的かつ効率的な集約及び分析等を行うことにより、本学の戦略的な大学経営の推進に資することを目的として活動しています。

平成 28 年 4 月に専任のスタッフが置かれてからは 2 年目となる平成 29 年度は、IR 担当植木俊哉理事の下で、主に IR 室・IR 連携ワーキンググループとしての活動の定着と、次への展開への可能性を探る 1 年となりました。また、平成 30 年度に入ってから、大野英男新総長の下で全学体制の改革が進められ、IR 室が担ってきた機能は、7 月以降は、平成 30 年 4 月より IR 担当となった青木孝文プロボスト(理事・副学長)の下、以前より支援・連携をいただいていた総長・プロボスト室が担うことで、より機動的に全学 IR を推進していくことになります。

東北大学は、平成 29 年 6 月に指定国立大学となりましたが、IR 室は、申請タスクフォースの一員として、メンバーの方々とともに海外の有力大学とのベンチマーク作業のための調査の設計・現地訪問・報告書作成の作業を担当しました。IR 室では、指定国立大学指定後も、例えば東北大学版プロボスト導入にむけた情報収集・調査資料の作成など、東北大学が世界から尊敬される創造と変革を先導する大学となるための戦略形成につながる情報収集・分析を担ってまいりました。

平成 29 年度のもうひとつの主要な達成は、『東北大学 IR データ集』の発行です。これは、東北大学の戦略的経営のための基礎資料としての役割を担うもので、各理事・副学長他、学内の多くの方々に意見を伺いながら作成しました。また、月 1 回をめぐりとして、また、平成 30 年度に入ってから、関係者の方々へ Observatory と題したメールマガジンの発信を進めてきました。

また、平成 29 年度は、支援スタッフとして渡邊真由さんが、そして、平成 30 年度は仁昌寺緒美さんが、様々なアドミニストレーション業務を精力的にこなしていただきました。

IR 室では、大学のさまざまな場所で多様な構成員がデータを集め、自らの視点で分析し、よりよい大学のあり方について提言していけるような環境作りを支援し、その情報が適切な形で大学のリーダーに届くことで有効な大学ガバナンスが実現するように調整を行っていくという、インスティテューショナル・エフェクティブネス(IE)の実現を理想と考えてまいりました。2 年 3 ヶ月の活動を通じて、IR 連携 WG のメンバー機関それぞれで着実に IR や関連業務のノウハウが蓄積され、さまざまな成果が現れてきていることも、たいへん力づけられる思いであります。

今後も、全学の IR 関係者が連携し、学内外のさまざまな方々との協力・連携を通じて東北大学および世界の大学改革の推進に貢献していければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

東北大学インスティテューショナル・リサーチ室長・教授
総長特別補佐(IR 総括担当)
米澤 彰純

1. データの整備とモニタリング

IR 室では、東北大学の戦略的な大学経営の推進に資することを目的として、本学の諸活動に関する多様なデータの集約・分析を進めました。具体的な成果として、東北大学の戦略的経営に資するための基礎資料『東北大学 IR データ集』を発行しました。また、調査分析室と共同で第三期中期目標・中期計画に関わる主要な定量指標のモニタリングを行うなど、IR 連携ワーキンググループをはじめとする学内の様々な方々との連携・協力のもとで東北大学のデータ整備・モニタリングに貢献しました。

(1) 東北大学の戦略的な大学経営の推進のためのデータの整備・分析

東北大学 IR 室では、学内に分散して存在する東北大学の戦略的な大学経営の推進のために必要な基礎データを統合し提供する体制を整えることを主要な活動目標に掲げています。IR 室ではその第一歩として、本年度、大学の戦略的経営のための基礎資料となる『東北大学 IR データ集』を作成、大学経営に関わる学内関係者に配布しました。この過程では、関係理事・副学長等へのヒアリング、IR 連携 WG でのディスカッションなどを通じて学内の意見を聴取し、今後データ提供を本格化する上での準備を進めました。

(2) 中期目標・中期計画に掲げる数値目標に関わる調査の実施

平成 28 年度より 6 年間にわたる第 3 期中期目標・中期計画の期間が開始され、そのなかで様々な数値目標が掲げられています。昨年度総長室と協力し、IR 室で行った調査を継続・発展させる形で、評価分析室と共同で関係部署に調査、数値目標の可視化・共有化に努めました。

(3) 大学の国際的評価に関わるデータ・情報の整備・収集・分析

東北大学は里見ビジョンで「ワールドクラスへの飛躍」を掲げています。また、指定国立大学、スーパーグローバル大学事業、研究大学強化促進事業等にも採択され、大学の諸活動に関しての国際的な評価を求められる機会も多くあります。IR 室では、国際大学ランキングをはじめとする大学の国際的評価に関わる多様なデータ・情報の整備・収集・分析を行い、運営企画会議など学内会議等で報告・情報提供を行ってきました。また、米澤室長は、Times Higher Education とベネッセのランキング、また、ロイター社他の Asia's Most Innovative University Ranking の発表イベントなどで東北大学の取組を紹介し、また国際的大学排名に対して双方向の形での関係作りを進めました。

(4) 東北大学国際戦略策定に向けたデータの収集・分析

東北大学では、東北大学グローバルイニシアティブ構想による国際連携・国際化を推進しています。IR 室は、国際連携推進機構の下におかれた国際戦略案策定作業部会に参加し、国際戦略策定に向けた作業部会のデータブックを作成、関係部署と連携・協力し、国際交流、学生・研究者の受入れ・送り出しに関するデータの整備・分析を行いました。

2. 世界の有力大学、IR の動向調査・交流

(1) ワールドクラス大学へのベンチマーク、ベスト・プラクティスに関する情報収集・分析・発信

東北大学は、平成 29 年 6 月に指定国立大学に指定されました。IR 室は、その申請の過程で世界のトップ大学とのベンチマークのための訪問調査・分析作業に中心的な役割を担いました。IR 室は指定後の進捗管理にも参加しており、プロボストのあり方や大学の戦略的財務のあり方などについての情報を収集・分析し、内部資料として関係者に提供しています。また、東北大学の国際的な位置づけを高める観点から、東北大学のワールドクラスへの取組を世界に発信する役割も、積極的に担いました。大野特任講師は、指定国立大学や震災復興プロジェクト等での東北大学の諸活動・取組の英語での発信の支援に中心的な役割を果たしました。また、米澤室長は、指定国立大学制度とそこでの東北大学の取組について、欧州の IR 関係者の集まりである European Higher Education Society (EAIR) で発表しました。

(2) 国内外の IR 活動に関わる動向調査・交流

東北大学における IR 活動と、IR を大学全体の継続的改革へと結びつけていくインスティテューショナル・エフェクティブネス(IE)とを活性化・発展させるため、IR 室では IR 連携 WG とともに国内外で IR 活動がどのように行われているかについて、調査・交流等を進めてきました。具体的には、東京工業大学、北海道大学、京都大学などへの訪問調査の他、大学評価コンソーシアム、日本高等教育学会、大学教育学会など、IR をテーマ・課題に掲げる様々なネットワークの集会に参加し、国内の先進事例についての動向把握・交流に努めました。米澤室長は、名古屋大学等で IR と大学ガバナンスに関する講演を行ったほか、IR 関係者が集まる大学評価コンソーシアム等に参加・発表を行いました。大野林太郎特任講師は、オーストラリアや米国などの IR 協会の会合等に参加し、東北大学の IR への取組について発表しました。

(3) 国内外の高等教育の動向に関する情報・データの収集・提供

IR 室では、このほか、国内外の高等教育の動向について、情報・データの収集・提供を行ってきました。平成 29 年度は月 1 回、平成 30 年度に入ってから月 2 回のペースで、学内の大学経営関係者向けのメールマガジン **Observatory** を発行し、最新の国内・国際の高等教育政策のトレンドや、データの動向などについての情報提供を進めてきました。東北大学が中心的な役割を果たす東北支部を含む IDE 大学協会の活動への参加、国内外の諸学会、情報交換会への参加などを通じ、学内外、国内外の幅広い関係者と情報・データの収集・提供およびこれにかかわる協力・連携を行ってきました。米澤室長は、日本比較教育学会の課題研究にて、大学のランキングや IR のあり方についての招待報告を行いました。

3. 東北大学における IR・IE 活動の連携促進

(1) IR 室の活動の実質化

平成 29 年度において、IR 室の体制整備が一段落を終えたことから、活動の実質化に努めました。IR 室では、東北大学における様々な IR 活動を大学全体の継続的改革へと結びつけていくことが重要と考えています。これは、IR で収集・分析するデータなどを通じて把握した課題などを確実に改善しながら組織のパフォーマンスを向上させるという、インスティテューショナル・エフェクティブネス(IE)という大学の継続的改革の促進をめざす考え方に基づいています。

IR 室の運営・活動の方針は、植木俊哉 IR 担当理事を座長とする IR 運営協議会との協議を通じて定められ、そして、東北大学の IR・IE 活動を活性化する上で特に大きな役割を果たすのが、IR 連携ワーキンググループの設置とその活動です。

(2) IR・IE の全学的連携・協力の推進

東北大学の IR・IE は、学内にすでに存在する IR 活動とその担当者との横の連携・協力を進めることで、全学として IR 活動の有効性を高めるとともに、IR 室がこれらの連携を基盤に総長とその補佐体制とに直接つながることで、東北大学の IR の諸活動が全学としての意思決定や効率性の向上への貢献を強めていくことを目的に設計されています。同連携ワーキンググループは、平成 29 年度中に 4 回開催され、各部門での IR 活動に関する情報交換、IR 活動推進のための学内外の情報収集を実施してきました。また、本年は、東北大学史料館加藤諭准教授にもオブザーバーとして参加いただきました。

(3) 国際交流の推進

平成 29 年 5 月には日本高等教育学会の大会が東北大学で開かれ、中国高等教育学会 IR 分会の代表団が本学を訪問、植木俊哉 IR 担当理事、IR 連携 WG メンバーとの交流が行われ、中国での IR の取組について学ぶとともに、本学の IR 活動について、国際発信をすることができました。また、IR 連携 WG や、その他の本学の IR 関係者は、それぞれの国内外のネットアークのなかで幅広い活躍をしています。第3回の IR 連携 WG の会合では、米国 Association for Institutional Research で発表された清家弘史 URA センター特任准教授に IR 連携 WG 会合で話題提供をいただきました。また、松河秀哉教育評価分析センター講師は、カリフォルニア大学バークレー校で開かれた国際研究大学学生調査(SERU)の会合に本学を代表して参加されました。

4. 到達点と課題

(1)到達点1:戦略的大学経営の基礎データ及び情報の提供

平成 29 年度には、IR 室からの基礎データ及び情報を行うための2つの基本となるメディアを整備しました。第一は、『東北大学 IR データ集』の発行です。これは、東北大学が戦略的な大学運営を進めるための基礎データ集で、この発行は、これからより効果的な情報提供を進めていくための第一歩と位置づけられます。今後は、このデータ集作成の過程で得られたデータや関連情報を有効活用すべく、東北大学の戦略的経営に資するような効果的なデータ分析につなげていきたいと考えております。第二は、メールマガジン『Observatory』の発行です。国内外の大学関連の情報・データなどを学内の大学経営関係者の方々にお知らせしてきました。この機能については、平成 30 年 7 月以降は、東北大学の国際的プレゼンスの抜本的向上や世界からの尊敬を獲得する観点から、より国際的な動向に焦点を当てた形で新設の国際戦略室が引き継いでいくことを検討しています。

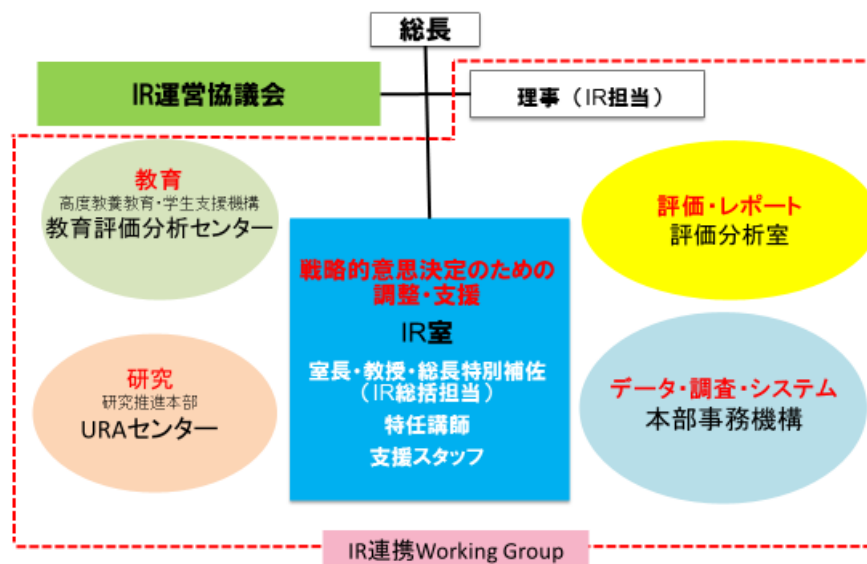
(2)到達点2:国際性を意識した IR 活動のあり方の提示

東北大学 IR 室は、発足当初から、東北大学がかかげる「ワールドクラスへの飛躍」を念頭に、国際性を意識した IR 活動のあり方を日本の先進事例として提示することを目指してきました。指定国立大学関連を中心とした国内外の有力大学の情報収集・分析および有力大学としての東北大学の国際情報発信の支援、国際大学ランキングの分析・対応・発信、国際戦略策定のためのデータの収集・整備などについて、全学のさまざまな関係者と連携・協力しながら一定の貢献を果たし、国際性を意識した IR 活動のひとつのあり方を提示してきました。

(3)現状・課題と今後の方針:大学の戦略的運営に資する学内外のデータの有効な形での提供

東北大学は、従前よりアクションプランやビジョンを全学的に整備し、また、評価分析室、URA センター、教育評価分析センターをはじめとする多様な関係部署においてそれぞれ大学の諸活動を分析し、エビデンスに基づく意思決定を進めています。例えば教育評価分析センターで多様なデータの統合・分析が進んだように大学の各 IR 部門での活動の深化が進み始めています。このなかで、戦略形成・企画などの観点に立つ IR 室の特徴と役割が、少しずつ固まってきた1年であったと思います。IR 室設立を進められた里見進前総長が退任され、平成 30 年度からは大野英男現総長体制のもとで、さらに機動的に東北大学としての IR 活動を推進していくべく、総長・プロボスト室が IR 活動を担う新たな体制がスタートすることになります。

付 1. 東北大学 IR 室と連携組織図・平成 29-30 年度スタッフ名簿



- 米澤 彰純 YONEZAWA, Akiyoshi 室長・教授・総長特別補佐 (IR 総括担当)
- 大野 林太郎 OHNO Rintaro 特任講師
- 渡邊真由 WATANABE Mayu 支援スタッフ (平成 29 年度)
- 仁昌寺緒美 NISHOJI Tsukugmi 支援スタッフ (平成 30 年度)

付 2. 東北大学インスティテューショナル・リサーチ室設置要綱

(趣旨)

第1条 この要項は、国立大学法人東北大学インスティテューショナル・リサーチ室の設置並びにその組織及び運営について定めるものとする。

(設置)

第2条 国立大学法人東北大学(以下「本学」という。)に、インスティテューショナル・リサーチ室(以下「IR室」という。)を置く。

(目的)

第3条 IR室は、本学の特定事業組織として、教育、研究その他の本学の諸活動に関する多様なデータの効果的かつ効率的な集約及び分析等を行うことにより、本学の戦略的な大学経営の推進に資することを目的とする。

(職及び職員)

第4条 IR室に、次の職及び職員を置く。室長

教 授 准教授 講 師 助教

技術職員

その他の職員

(室長)

第5条 室長は、IR室の業務を掌理する。

2 室長は、総長が指名する理事若しくは副学長又は本学の専任の教授をもって充てる。

3 室長の任期は、2年(理事又は副学長にあつては、その任期)とし、再任を妨げない。

4 前項の規定にかかわらず、任期の始期が4月1日でない室長に係る任期は、当該始期から1年を経過した日の属する年度の末日までの期間とする。

(運営協議会)

第6条 IR室に、本学のインスティテューショナル・リサーチに関する事項について意見を求めるため、運営協議会を置く。

(運営協議会の組織)

第7条 運営協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。一 総長が指名する理事又は副学長 若干人

二 室 長

三 高度教養教育・学生支援機構の教授又は准教授 若干人

四 研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンターの特任教授又は特任准教授 若干人

五 評価分析室の室員 若干人

六 総務企画部長、教育・学生支援部長、財務部長及び研究推進部長 七 総長室主任経営企画スタッフ、その他委員長が必要と認めた者 若干人

(運営協議会の委員長)

第8条 運営協議会に委員長を置き、前条第1号に掲げる委員のうちから総長が指名する者をもって充てる。

2 委員長は、運営協議会の会務を掌理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
(委嘱)

第9条 第7条第1号、第3号から第5号まで及び第8号に掲げる委員は、室長が委嘱する。

(任期)

第10条 第7条第3号、第4号及び第8号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(特定事項の調査検討等)

第11条 IR室に、特定事項について専門的に調査検討等を行うため、必要な組織を置くことができる。

(事務)

第12条 IR室の事務については、総長室において処理する。

(雑則)

第13条 この要項に定めるもののほか、IR室の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成28年1月1日から施行する。

付 3. 東北大学運営協議会名簿及び会合実績(平成 29 年度)

- 植木俊哉 委員長 理事(総務・国際展開・事務統括担当) 第 7 条第 1 号委員
※IR 担当(管理・運営)理事
- 花輪公雄 理事(教育・学生支援・教育国際交流担当) 第 7 条第 1 号委員
※高度教養教育・学生支援機構長
- 伊藤貞嘉 理事(研究担当) 第 7 条第 1 号委員
- 大槻達也 理事(人事労務・環境 安全 担当) 第 7 条第 1 号委員
- 兵頭英治 副学長(法務コンプライアンス担当) 第 7 条第 1 号委員 ※評価分析室長
- 米澤彰純 IR室教授 第 7 条第 2 号委員 ※IR 室長
- 杉本和弘 高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター教授 第 7 条第 3 号委員
※教育評価分析センター長
- 串本剛 高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター准教授
第 7 条第 3 号委員
- 河村純一 研究推進・支援機構リサーチ・アドミニストレーションセンター教授
第 7 条第 4 号委員 ※URA センター長
- 清家弘史 研究推進・支援機構リサーチ・アドミニストレーションセンター特任准教授
第 7 条第 4 号委員
- 曾根秀昭 評価分析室員 第 7 条第 5 号委員
- 齋藤仁 総務企画部長 第 7 条第 6 号委員
- 藤王勉 教育・学生支援部長 第 7 条第 6 号委員
- 伊豆仁志 財務部長 第 7 条第 6 号委員
- 佐藤秀明 研究推進部長 第 7 条第 6 号委員
- 菊田克也 総長室主任経営企画スタッフ 第 7 条第 7 号委員

第 1 回 平成 29 年 6 月 5 日(月)11:00-12:00 片平エクステンション教育研究棟 1F 部局長会議室

IR 室及び IR 連携 WG メンバー組織について、昨年度の活動報告が行われ、本年度の体制・活動の方針について協議を行った。

付 4. 東北大学 IR 連携ワーキンググループ名簿及び会合実績（平成 29 年度）

米澤彰純	IR室教授 ※IR 室長
杉本和弘	高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター教授・センター長
串本剛	高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター准教授
河村純一	研究推進・支援機構リサーチ・アドミニストレーションセンター教授・センター長
清家弘史	研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター特任准教授
Hansen Marc	研究推進本部リサーチ・アドミニストレーションセンター特任助教
関内隆	評価分析室教授・副室長
曾根秀昭	評価分析室教授・副室長
船田正幸	法務課長
菊田克也	総長室主任経営企画スタッフ
小野一俊	総長室経営企画スタッフ
伊藤周	総長室経営企画スタッフ

※ 会合には、必要に応じ、植木理事・IR 運営協議会委員長他、上記以外の関係者が出席した。

第 1 回(5 月 25 日)

中国高等教育学会 IR 分会訪問団との交流を行い、IR 連携 WG メンバー組織のそれぞれの活動を報告した。

第 2 回(7 月 28 日)

今年度の IR 連携 WG の方針、IR データ集(IR 室)、学生調査データの二次利用(CIR)、教員の個人評価(評価分析室)について情報の共有と議論を行った。

第 3 回(10 月 5 日)

IR データ集、研究力を測る指標(URA センター)、学修成果調査(CIR)について、話題提供、情報共有、議論を行った。

第 4 回(2 月 15 日)

IR データ集について報告、議論を行い、また、連携 WG メンバー組織でのそれぞれの今年度の活動についての報告、情報共有を行った。

付 5. 東北大学 IR 連携ワーキンググループ名簿及び会合実績（平成 30 年度）

米澤彰純	IR室教授 ※IR 室長
杉本和弘	高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター教授・センター長
串本剛	高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センター准教授
河村純一	研究推進・支援機構リサーチ・アドミニストレーションセンター教授・センター長
清家弘史	研究推進・支援機構リサーチ・アドミニストレーションセンター特任准教授
Hansen Marc	研究推進・支援機構リサーチ・アドミニストレーションセンター特任助教
関内隆	評価分析室教授・副室長
曾根秀昭	評価分析室教授・副室長
阿部文洋	法務課長
菊田克也	総長室主任経営企画スタッフ
小野一俊	総長室経営企画スタッフ
伊藤周	総長室経営企画スタッフ

※ 会合には、必要に応じ、青木孝文・IR 運営協議会委員長他、上記以外の関係者が出席した。

第 1 回(6 月 14 日)

今年度の全学 IR 体制、IR 連携 WG の方針について報告、議論を行い、また、連携 WG メンバー組織でのそれぞれの今年度の活動についての報告、情報共有を行った。

付 6. スタッフの活動記録(IR 活動に関連する講演・発表・出版物など)

米澤彰純室長・教授

- 【寄稿】「有識者に聞く:教育力の指標としての日本大学ランキング」Between2017 年 5-6 月号 12 頁
- 【招待パネリスト】ロイター Asia's Most Innovative Universities 2017 発表オンライン討論会、平成 29 年 6 月 8 日、於ソウル(韓国)
- 【招待パネリスト】「グローバル時代における大学の国際比較:世界大学ランキングを越えて」日本比較教育学会第 53 回、平成 29 年 6 月 23-25 日、於東京大学
- 【基調講演】北京理工大学主催 International Conference on Graduate Education 2017、平成 29 年 10 月 25-27 日於北京
- 【招待講演】「日本の大学と機能としての IR」日本大学文理学部 FD セミナー、平成 29 年 11 月 9 日
- 【寄稿】「高等教育質保証の国際動向と認証評価」IDE: 現代の高等教育 (595), 55-58, 2017 年 11 月 1 日
- 【意見掲載】US and Japan poles apart on their view of graduate ability, Times Higher Education 平成 29 年 11 月 22 日
- 【招待講演】「教育の質保証を促す大学のガバナンスと IR の役割」名古屋大学教育基盤連携本部セミナー、平成 30 年 2 月 2 日
- 【発表】「指定国立大学と海外大学ベンチマーキング」大学評価コンソーシアム・継続的改善のための IR/IE セミナー2018、平成 30 年 3 月 2 日
- 【意見掲載】Access granted, Nature Index 平成 30 年 3 月 21 日
- 【寄稿】「脱群盲評象とグローバル・スタディーズ: 比較高等教育研究の現代的挑戦」比較教育各研究(56), 160-172 頁、平成 30 年 5 月
- 【政策ヒアリング】文部科学省中央教育審議会大学分科会将来構想部会、平成 30 年 5 月 18 日
- 【招待講演】「東北大学の IR の取組」宮城教育大学 FD セミナー、平成 30 年 6 月 11 日

IR 関係国際会議等への参加

- European Higher Education Society (EAIR、欧州): 米澤彰純教授、小野一俊総長室経営企画スタッフ
- Australasian Association for Institutional Research (AAIR、豪州): 大野林太郎特任講師
- Association for Institutional Research (AIR、米国): 大野林太郎特任講師

2018 年（平成 30 年）6 月

東北大学 インスティテューショナル・リサーチ室

〒980-8577 仙台市青葉区片平 2 丁目 1 番 1 号 TEL 022-217-5919

oir@grp.tohoku.ac.jp

<http://oir.tohoku.ac.jp/>